

農業分野での生育行程データのクラウド化で経営の安定を目指す！ (稲作へのIoT技術の導入で更に高品質な綾部米の生産を未来につなぐために)

少子高齢化と人口減少が懸念される我が国において、地方創生は喫緊の課題であり、政府の中長期的な最重要課題に位置付けられている。地方創生には地域経済の活性化が必要であるが、それには他の産業にも好影響を与える基幹産業の活性化が重要である。また、篤農家の持つ技術・ノウハウの新規就農者等への継承を促進するためには標準化に基づくデータの活用が不可欠である。

当市は、耕地面積の約87%を水田が占めており、水稻を中心に、麦、小豆などの土地利用型作物や野菜、茶、畜産などの各種の作物を組み合わせた複合経営による農業が行われている。そこで、水稻において、水田センサを生産者の圃場に設置し、リアルタイムで提供される用水・気象情報やライスカム(※1)による生育診断をもとに栽培管理を行うことで、食味・品質の高位安定化と水管理に係る労働時間の短縮を図る。さらに、圃場ごとに栽培記録が集約できるシステムも活用して、水田センサから得たデータと栽培記録のデータを連動させて分析比較できる体制を構築し、農業従事者がデータを共有して活用できる環境づくりを進め、データを活用した生産性向上や熟練農家の技の継承を実現する。

※1 ライスカム：京都府農林水産技術センターと京都大学が開発した水稻の生育診断アプリ

< K P I >

綾部産特別栽培米の収量及び等級比率
農業従事者の作業時間の削減

< スケジュール >

平成30年度～34年度に実装事業

< 展開イメージ >

